

「行政運営」から「行政経営」へ

合併の成果がもたらす真の意味での「新しいまち南丹市」を創造していくためには、どのように取り組んでいけばいいのでしょうか。

今、行政に求められていることは、限られた財源の中で、ニーズに最大限応えることです。

そのためには、「前例踏襲」といった言葉で表現される古い価値観から脱却し、新たな課題への迅速な対応を基本に、安定と発展を可能にする「経営」の感覚を取り入れた運営形態が必要なのです。

そこで、南丹市が取り組みを進めているのが「行政経営」。

行政評価制度の確立により「必要性」「効率性」「有効性」を明確にした上で、南丹市総合振興計画の目標を達成するために必要な事務事業を選定し、限られた財源を有効に配分する取り組みです。

税金投入の目的が明確でない事業や、成果の表れない事業などは抜本的に見直すこととなります。

逆に、住民目線によるサービスの向上を図る取り組みも推進します。もちろん、取捨選択においては、市民の皆さんに理解・納得をいただけるよう、説明責任を果たすことが重要だと考えています。

地域や人々が元気づくまちづくり

人や情報が行き交うまち

JR山陰本線の八木―園部間の複線化工事が完了し、3月から供用開始となりました。これにより、快速などの所要時間が短縮されました。来春には、京都―園部間の全線複線化(①)が完成し、本格的なダイヤ改正が行われる予定です。これに合わせて、南丹市営バスの運行も鉄道との接続を考慮した利用しやすいダイヤ編成へと見直しを行い、八木駅・吉富駅・園部駅の駅周辺整備も進めていきます(②)。園部駅以北の複線



▲複線化になって行き違う電車(八木町玉ノ井)

化についても引き続きJR西日本に要望活動を強めていきます。

また、情報通信格差をなくすため、今や生活の必需品ともいわれる携帯電話などが通じない地域への鉄塔施設の整備を進めます(③)。

そして、にぎわうまちづくりには欠かせない中心市街地の整備(④)、アクセス道路の整備(⑤)も促進し、人とまちをつなぐネットワークを確立していきます。

ふるさとに住み、ふるさとで働く南丹市で暮らしていく上で、働く場所の確保は大変重要なことです。現在、京都新光悦村(園部町瓜生野・内林町)をはじめ、市内への企業・工場の誘致を積極的に進めています(⑥・⑦)。地元雇用企業への支援は、市民の皆さんの就業機会の拡大、地域産業経済の活性化にもつながります。

また、地元商工業者の経営を支援するために、セーフティネット事業として小規模企業支援事業補助金の交付事業を新たに実施します(⑧)。働く場と定住環境の両面が整った活気あるまちを目指します。

〈当初予算の主な事業〉※抜粋

- ① 山陰本線複線化事業補助金 3億8,621万円
JR山陰本線複線化事業に伴う経費負担としてJR西日本に対し補助金を交付(平成17年度以降の南丹市負担総額約16億6,600万円)
- ② 吉富駅西・八木駅西土地画整理事業 370万円
- ③ 移動通信用鉄塔施設整備事業 8,685万円
携帯電話の不感地域解消のため、移動通信用鉄塔を設置(日吉町海老谷、美山町上ヶ城、美山町河内谷)
- ④ 本町土地画整理事業 3億4,005万円
- ⑤ 道路新設改良事業 4億3,460万円
- ⑥ 京都新光悦村企業立地奨励金 1,196万円
- ⑦ 工場誘致事業奨励金 2億2,892万円
- ⑧ 小規模企業支援事業補助金 1,000万円
- ⑨ 野菜等経営安定事業負担金 840万円